

令和 4年 9月21日産業環境委員会（市長質問）

◆西 委員 お疲れさまです。おはようございます。創志会の西でございます。

それでは冒頭恐縮ですが、質問させていただきたいと思います。今日も私の地元津久野毛穴地域の注染和ざらしを着用して質問させていただきたいと思います。

バスの中でそれ何なのと、見守り隊の皆さんにそれ何なのと聞かれながら、いやこれはねと、アロハと違うのと、いや違いますよと、そういう会話をしながらここまで参りました。この注染和ざらし、ぜひとも堺の誇る伝統産品として広げていっていただきたいと思いますが、今なかなかこの注染和ざらし危機的な状況にあります。そういった中で質問させていただきたいと思います。

まず、伝統産業支援として堺はどのような取組をしているか、お示してください。

◎本池 地域産業課長 堺市基本計画2025の重点戦略の施策の1つである伝統産業のブランド力向上による活性化を図るため、刃物、注染、線香をはじめとする伝統産業のブランド化や販路開拓、技能の承継や後継者の育成に取り組んでいます。

特に、堺の伝統産品が持つ魅力を広く発信し、認知度を高めるためには、ブランド化の取組が重要と考えています。そのため、愛着を持って長く使い続けられる上質なアイテムを提案していくブランド、堺キッチンを構築し、大きな市場である首都圏での販売やイベントの実施、各種情報発信を通じて認知度の向上に取り組んでいます。

また、伝統産業後継者育成事業補助金による後継者育成に取り組む事業主の支援や伝統産業の未来を担う若手が業種間、職種間の垣根を越えて集い、情報共有やネットワーク形成を通じて刺激を分かち合う伝統産業若手異業種交流会を開催しています。

さらに今年度、新事業として多くの方に伝統産品の手作りのよさや職人のプロの技術を肌で感じていただくきっかけとなるオープンファクトリーを推進するための補助金を創設したところです。以上です。

◆西 委員 いろいろと頑張っていたらということ承知をしています。ぜひ様々な堺の伝統産品の支援をぜひ頑張っていたらいいなと思ってます。これは我々が堺を誇りに思う1つの要素でありますので、ぜひよろしくお願ひしたいなというふうに思いますが、包丁や線香等々、そのほかにもいろいろありますが、ぜひ御支援をお願ひしたいところでもありますけれども、今日は注染和ざらしの話題をさせていただきたいと思いますが、この現状非常に大変な状況にあるというふうに私は聞いていますし、思っていますが、どのように認識をされているか、お示してください。

◎本池 地域産業課長 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、昨年、業界組合及び市内

伝統産業事業者に対するヒアリングを行った結果、全国各地の祭りやイベントが中止になったことや学生の剣道大会が中止になったことなどにより、浴衣や手ぬぐいの受注が激減し、各社とも売上げが落ちていることから、伝統産業のPRと販売面でのさらなる支援をお願いしたいとの声を聞いています。

また、今年に入り受注が戻りつつあるものの、従業員の退職や雇用調整による人手不足の問題や資材高騰の影響などの声も聞いているところです。以上です。

◆西 委員 戻りつつあるといっても、まだまだ戻ってないわけですね。さらに非常に大変な状況で雇用を減らさざるを得なくなったということから考えても、非常に今存続の危機にあるということだと思います。

いろいろとヒアリングをしていただいていると思います。皆さんがいろいろと尋ねてくださっていると聞いています。ぜひこの現状についてはしっかりと踏まえていただきたいと思いますが、どのような取組をこの現状に対してしているのか、お示してください。

◎本池 地域産業課長 注染和ざらしの認知度向上の取組として、7月4日から8日までの5日間、市役所1階で浪華本染め展を開催いたしました。

今年度から実演の機会を設け、職人の技術や色鮮やかな風合いを来庁者に感じていただき、注染が持つ魅力をPRし、気に入った手拭いをその場で購入できるよう販売も併せて実施いたしました。同様の取組は中区役所と西区役所でも実施しています。

また、ブランド化推進事業では、毎日の暮らしでささっとキッチンペーパーのように使えるさらしでできたキッチンアイテムや和ざらしをインテリアとして飾れるフレームボード、注染手拭いを丸1枚使用したチェアクッションカバーなど、上質な注染和ざらし製品を堺キッチンブランドとして認定し、その魅力を広く発信しています。

さらに伝匠館では、会館やネットショップ等において伝統製品の販売促進に取り組むとともに、伝統産業の情報発信拠点として各種PRや体験イベントを実施しています。リニューアル後の体験メニューとして和ざらしの雪花染め体験を新たに加えるなど、様々な機会を通じて注染和ざらしの魅力をPRしているところです。以上です。

◆西 委員 ありがとうございます。いろいろとPRをしていただいているというのは非常にいいことだなと思っています。まずは区民の皆さん、市民の皆さんに理解をしていただくために、展示会も含めて区役所で皆さんが集まってくる場所でやっていただいているということも評価をしたいというふうに思っています。

ただ冒頭申し上げたように、まだまだ市民の皆さんでもこれ何なのという声はたくさんあります。アロハとどう違うのということも言われます。ぜひやっぱりパブリシティーを非常に頑張っていたかなくちゃいけない、まだまだやっていただかなくちゃいけないんだろうなとは思っています。

例えばタレントの方が着ていただくとか、そういうふうに認知向上をやっていただくことが、また後ほど副市長にもお聞きをしたいと思いますのですが、重要になってくるというふうに思いますけど、先ほど堺キッチンというブランドの話が出てきました。このブランド皆さんが試みておられるのは非常に評価をしたいなというふうに思っているわけですが、ただ、まだ周辺に聞くと、堺キッチンというブランド、まだまだ市内でも認知が全然されていません。残念ながら、皆さん頑張っておられるのに申し訳ないところではありますが、ブランドというのは認定をするだけではなくて、やっぱり育てなくちゃいけないんですね。ブランドにためられていくという仕組みをどうつくっていくか、ブランドをどう強めていくかという観点が非常に重要になってくるというふうに思います。

このブランドどうやって育てていくのか、お示してください。

◎本池 地域産業課長 ブランドを育てるためには、まずそのブランドを知ってもらうこと、そして品質のよさなど、ブランドに対するプラスのイメージを持ってもらうことで、支持してくれるファンをつくるのが重要であると考えています。

昨年度、堺キッチンブランドを立ち上げ、ブランドコンセプトの構築やロゴの作成、ホームページ等によるPRを行いました。また、まだ認知度は低いことから、さらなる取組が必要であると認識しています。

そこで、今年度は、ユーザー目線で価値ある情報を発信することでファンを増やすコンテンツマーケティングを実施いたします。

具体的には、堺キッチンブランドの世界観を伝える動画や認定された商品の魅力を伝える記事を作成し、公式ホームページやSNSなど様々なメディアへ発信していきます。

また、ブランド認定した商品には堺キッチンのロゴの使用を促し、統一感を持った打ち出しを行っていきます。

これらの取組により、堺キッチンブランドのよさを広く伝え、支持してくれるファンをつくることで堺キッチンブランドを育てていきたいと考えています。以上です。

◆西 委員 ありがとうございます。堺キッチンブランド、ぜひもっともっとブランドにためていく、ブランドを育てていく、そういうイメージでぜひ頑張ってくださいなと思っております。

また、以前トリクルダウンなんて言葉もありましたけれども、堺キッチンを育てることによって次は注染和ざらしとかですね、刃物はじめ様々な堺産品に全体にどう広げていくかというストーリーもしっかり考えていただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

ところで今日、山岡副市長来ていただいておりますが、経済産業省出身で来ていただいて大変御活躍をいただいているところでありますけれども、やっぱり経済産業省との連携も重要になってくると思ひますので非常に期待をするところであります。どのように注染和

ざらし業界の現状いろいろと見ていただいているというふうにお聞きをしていますが、捉えておられるか、お示してください。

◎山岡 副市長　　まず、私も日頃から注染和ざらし、手拭いはもとより日傘であるとか、あとお料理に和ざらしを使ったりして愛用させていただいています。

業界の状況なんですけれども、昨年2月の組合長との意見交換や複数の事業者への訪問、あと浪華本染め展などの機会を通じて、直接業況や御意見、課題などをお聞きしております。

その中で、中区役所でこれまで行われておりました展示販売会を西区役所でも行ってもらえないかというような御要望を頂戴いたしましたので、西区長とも相談をいたしまして、昨年度から開催につなげることができました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業者に対する支援につきましては、担当職員を通じて経済産業省の各種支援メニューを御案内しまして、実際に販路開拓事業などに取り組まれたと聞いております。

これまでも国の動きに関しましては、経産省の情報に限らずその都度担当職員に伝えまして、またそれぞれ意見交換を行い、施策や事業に反映できないか検討をしております。

私は注染和ざらしに限らず、堺の伝統産業は全国的に見ても非常にポテンシャルが高いと思っておりまして、それぞれの業界が伝統産業のよさをそれぞれ融合ですね、単独ではなくてさらに掛け合わせることによって、さらなる発展が可能ではないかというふうに感じております。相乗効果が期待できる伝統産業のブランド化や若手異業種交流会については、とても強い期待を抱いております、強く進めているところです。

今後とも経済産業省に限らず、私の持てるネットワークを活用いたしまして、伝統産業をはじめ堺市の持続的な発展に貢献したいというふうに考えております。以上です。

◆西 委員　　後でどのように応援していただけるのかと聞こうと思ってたんですけど、先にお答えをいただきましてありがとうございます。

どのように今の業界の現状を副市長見られてるか、各業界の皆さんも、来ていただいてどのように副市長が理解をされていただいているか、非常に期待もしてるし、知りたがっておられるんですけど、現状認識についてぜひお示しいただきたいなと思ってます。

◎山岡 副市長　　課題の一端を私の単なる個人的な所見ですけども申し述べさせていただきますと、これまで注染というのは、OEMで生産されることが非常に多かったように聞いております。それがやはりコロナウイルスということで、やはり卸さんや小売さんの状況によってなかなか自分たちで独自の手が打てないというところに非常に皆さん今回感じられてるということをお伺いしております。

ですので、なるべく我々としては、独自の商品もお持ちにならないかということをお声かけしております、堺キッチンですとか、あとは若手交流会などを通じて新たなプロダクト

ですね、独自で個社さんが売り出せるようなそういったプロダクトを生めるような御支援を引き続き重点的に行っていききたいなと思っております。

あとは人材育成のところ、過去そういった支援もさせていただいておまして、何人か若手の方がそこで定着されているというのも聞いてますし、あとはやっぱりデザイナーですとか、今までは外に頼ってきたところを内製化される企業さんも出てきておりますので、そういった新たな取組に対して積極的に支援ができないか、担当局と相談をしているところです。以上です。

◆西 委員 ありがとうございます。いろいろと副市長のお言葉でお答えいただいて本当に感謝したいと思います。ぜひ積極的な取組、皆さん、山岡副市長来てくださってみんな喜んでましたので、ぜひよろしくお願ひしたいなと思っておりますが。

近畿経済産業局のホームページを見てると、伝統的工芸品産業支援補助金のところにもまだまだ出てこないんですね、堺の話が。そして伝統工芸品を見てると、近畿の伝統工芸品のところに浪華本染めの記載はありますが、これ実は柏原と堺なんですね。でも堺ってキーワードが出てこないんです。

さっきOEMの話もあったんですが、まさに包丁は、堺の包丁というのが知られていたのは、堺の皆さんが頑張って近年、堺の包丁ということで市役所の皆さんも頑張ってくれる中で伝わってきました。ただ、今さっきのOEMの話じゃないですが、堺の注染和ざらしだということがまだまだ全国的に伝わっていない。経産省とぜひ連携をしながら、ぜひドメインを生かしていただいて支援をお願いしたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。私、市長にぜひお願ひしたいのは、ぜひ市長に着ていただきたいんです。前の市長と比較をすると嫌がられるかもしれませんが、前の市長が着ていただいたときは、局長級の皆さん、必ず国へ行くときもどこへ行くときも、市長が着てるから仕方がなしかもしれませんが、着てました。今、産振局長着ておられて、産振局の皆さん、仕方がなしではないと思いますが、皆さん着ていただいて非常にいいなというふうに思っておりますけど、市長着ていただいたらみんな見て、それは何なのかという話題がまず始まると思うんですけど、ぜひ着ていただけませんか。

◎永藤 市長 今回の議員の質問の目的は、特定の商品を使用するというのではなくて注染和ざらしの魅力を広くPRすることだと考えています。市長が公務で使用する機会というのは外部の方と接する機会も多いものですから、非常に大事だと思っております。ぜひ私も公務で着用したいと思っておりますし、そのためにも事業者の皆様から御要望がありましたら、例えば形であったりデザインの御相談も含めて対応したいと考えています。

◆西 委員 ぜひよろしくお願ひします。まさに市長がいつもおっしゃられてるゼロコストでできる取組だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいなと思っております。お願ひ申し上げます。

して、この項目を終わります。ありがとうございます。